

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572709566		
法人名	有限会社 はる風		
事業所名	大森ケア・コミュニティ はる風		
所在地	秋田県横手市大森町字菅生田245番地226号		
自己評価作成日	令和5年9月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.akita-longlife.net/evaluation/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	令和5年11月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然にめぐまれ、四季を感じる事ができます。その環境を活かし、活動や行事を通して、一人ひとりが穏やかに安心して生活出来るようにと取り組んでいます。また、近くには大森病院もあり医師の往診、緊急時の対応等、医療面においても安心して生活ができる環境にあると思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナが長期化する中で、以前のように気軽に外出することが難しくなっていますが、近隣の公園や花を観に出かけ、ホームの催しもいつもとは形を変えて行い、利用者の満足度を引き出す努力を重ねています。面会も少しずつ緩和され、シルバーエリアの一面に立地して病院との連携も図られ、家族にとっての安心感にも繋がっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~46で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
47	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:19,20)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	54	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9,15)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
48	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	55	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,16)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
49	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:19)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	56	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
50	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	57	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
51	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:41)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	58	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
52	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	59	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
53	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義をふまえ、ミーティングや会議等を通して、理念を共有し日々のケアに活かして行けるよう取り組んでいる。	利用者が笑顔で過ごすことができるよう可能な限り会話の時間をもち、理念に沿った支援の実践に努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ過に於いては、利用者と地域との交流は出来なかったが、以前の様に地域行事、催し等を駐車場で披露して頂けるようになってほしいと思います。	利用者が地域の方々と触れ合う機会をつくることはできませんでしたが、行事の多い地域でもあることから、祭りのお札を届けていただく等、地域の一員としての繋がりは続いています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	地域推薦運営推進メンバーを中心に、地域に情報発信し施設の活動を理解して頂きながら、地域への貢献につなげるよう取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回の会議の中で、ホームの現状報告や様々な課題について、地域の方、行政の方を交えての意見交換を行い、サービス向上に活かして行けるよう努めている。	対面会議が開催され、地域情報や行政の情報提供等、参加各方面から多くの意見が出されています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナ過に於いては、介護相談員が直接入居者に面会する事は禁止していたが、今後は、定期訪問をして頂き、入居者のケアに努めて頂きたい。	包括主催の研修も休止状態が続いていますが、相談事項には電話で対応していただいています。	
6	(5)	○身体拘束及び虐待をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び「高齢者虐待防止関連法」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組むとともに、虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やミーティング等を通して、身体拘束について正しく理解し、日々のケアに取り組んでいる。玄関の施錠については状況により施錠している。(夜間は施錠) また、虐待防止の意識もち虐待が見過ごされる事のないように注意している。	適正化委員会、研修等を通じて職員への周知を図り、身体拘束、虐待のないケアに取り組んでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の利用を必要とする入居者はいないが、研修や勉強会などで学ぶ機会をもてるように努めている。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する不安や疑問点などについて、契約時等に説明を行い理解・納得を頂けるように努めています。改定等があった際も、通知や説明を行い理解・納得を頂けるよう努めています。		
9	(6)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、要望、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、適切に対応するとともに、それらを運営に反映させている	利用者の家族が意見や要望を気軽に話すことが出来るように努めている。また、利用者や家族からの意見や要望についてはミーティング等を通して職員間に伝えられる機会をもうけている。	家族から運営に関する意見が出されることは少ないようです。ホームでの暮らし方に活かせるよう、利用者の入居前の様子等を聞くようにしています。	
10	(7)	○運営や処遇改善に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や職場環境、職員育成等の処遇改善に関して、職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを適切に反映させている	ミーティング等などで意見や提案を聞く機会を設け、運営・職場環境・職員教育・処遇改善等が反映できるように努めている。	職員の提案を取り入れてエアコン、サーキュレーターが浴室に設置され、環境が改善されたことで快適で円滑な支援に繋がっています。	
11		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ここ3年程は、コロナ過で交流は出来なかったが、市のグループホームの情報交換会組織を起動させ、研修・交流の機会を作りサービスの質の向上に努めたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	お話する機会を密に取り不安感が少なくなるよう努める。		
13		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時や面接の際など、困っていることや不安な事、要望などを聞きながら信頼関係をつくっていけるように努める。		
14		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、会話したり、一緒に作業を行ったりしながら、常に寄り添うような気持ちで、支えあえる関係を築けるように努めている。		
15		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ過で現在は行っていないが、家族の方にも行事に参加いただいたり、日々の状況など手紙や電話で連絡し伝えながら家族等ともコミュニケーションを図り共に支えて行けるように努めている。		
16	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように、支援に努めている	家族等の協力も得ながら、なじみの人や場所との関係が途切れないような支援につとめている。すべての利用者に支援が出来るわけではない。	長びくコロナの影響で利用者が楽しみにしている介護相談員との対話や馴染みの理美容院に行くことができず、終息後の再開が待たれます。帰宅を希望する方には、家族に対応をお願いすることもあります。	
17		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の中で、会話の機会や共同の作業などを通して利用者同士が関わり合い、支え合えるような関係が出来るように努めている。一人ことりの個性や身体状況も考慮しながら支援できるように努めている。		
18		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要性のあるケースについては、継続的なかわりを持ち、相談や支援に努めるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向、心身状態、有する力等の把握に努め、これが困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや希望、意向が把握できるように努めている。また、職員間で情報の共有を図り、本人の思いに寄り添えるような支援が出来るように努めている。	理念に添い、意識的に利用者との会話の時間を持つことで思いを聞き取り、意向に添った支援ができるように努めています。職員は気づいたことや得られた情報を連絡ノートを通じて共有しています。	
20		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面接時や入所後も本人や家族に話しを聞きながら、なじみの暮らし方、生活環境、これまでの経過等の把握に努めている。		
21	(10)	○チームでつくる個別介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した個別介護計画を作成している	本人や家族とも話し合い、意見や要望を聞き、職員のミーティングなどで意見を出しながら、介護計画を作成するように努めている。	モニタリング、カンファレンスを通じて職員が意見を出し合い、介護計画を作成しています。	記録様式に工夫はみられますが、モニタリング及び介護計画の見直しのために、個別介護計画に基づく日常記録についての検討を期待します。
22		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や個別介護計画の見直しに活かしている	日々の申し送りやミーティング等、職員間の連絡ノートを活用しながら情報の共有を行い、実践や介護計画の見直しに活かすように努めている。		
23		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じて地域資源を活用出来るように努めている。		
24	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を大切にしながら、かかりつけ医、歯科医、薬局等と事業所の関係も築きながら適切な医療を受けられるように支援しています。	本人、家族の希望に添って支援しており、協力医以外の受診は家族にお願いしています。協力医による訪問診療、訪問歯科診療が行われ、薬局とも良好な関係が築かれています。	
25		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内には看護師がいないため、協力医院の看護師の方などに相談しながら、個々の利用者が適切な受診等を受けられるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院のケースワーカーとの情報交換、相談等連絡を密にしながら支援できるように努めています。		
27	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の状態を見ながら、事業者で出来ることを説明し、家族等やかかりつけ医と相談し方針を共有するようにしている。	看取りの支援を行わないことを入居時に説明しています。状態の変化に応じて医師、家族と話し合い、次の支援に繋げています。	
28		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル等の作成は行っているが、実践訓練は定期的には、行っていない。		
29	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練の機会を通して、職員が避難誘導の方法を身に着けるように努めています。また、地域の町内会長、民生委員などの方々にも、話し合いなどの機会に災害時の協力について働きかけている。	年2回避難訓練を実施し、訓練後に協力員の講評を受けています。BCP(事業継続計画)は作成中です。	BCP作成とそれに基づいた訓練の実施を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ミーティングなどで、一人ひとりの言葉かけや対応について話し合い、支援するように努めている。	利用者を尊重した言葉かけ、対応に配慮しています。	
31		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族の協力を得ながら、洋服や髪型などその人らしい身だしなみができるように支援している。		
32	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みなどを把握し、食事の状況などを確認し、食形態を工夫したりしながら食事の支援に努めている。	職員が見守る中で必要なサポートをしながら同じ空間で食事をしています。季節、行事に合わせた食事を提供し、例年の催しは感染防止のために屋内で行って大いに盛り上がり、楽しんでいただいたようです。	
33		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量のチェックや水分の摂取状況など確認しながら、一人ひとりの状態に応じた支援に努めている。		
34		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、本人の力に応じた口腔ケアの支援に努めている。		
35	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表などを活用し、一人ひとりの排泄パターンをつかみ、言葉かけや誘導などで排泄の支援に努めている。	利用者への声かけ、誘導を適切に行っています。チェック表を活用することによって失禁の減少に繋がっています。	
36		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表などを活用し、飲食物など、一人ひとりに応じた予防に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一人ひとりの健康状態やタイミングにあわせて入浴の支援に努めているが、希望の時間に依りての支援は出来ていない。	1日3人を目途に週2～3回の入浴支援を行っています。拒否する方には日にちを変える等して無理に入浴を促さず、清潔が保てるように配慮しています。	
38		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援に努めている。		
39		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬についての理解を深め、服薬の支援や症状等の変化について確認に努めている。		
40		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力を活かした役割、行事等やドライブなどの楽しみごと、気分転換等の支援に努めている。		
41	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ過で外出するところが限られてはいるが、出来る限りご希望に添えるよう支援している。	近場の公園や花を眺めながら散歩できる場所に出かけ、制限がある中でも利用者以外に外の空気を吸いながら楽しんでいただけるよう工夫をしています。	
42		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの持てる力に応じて、支援するように努めている。		
43	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	光の調整や室内の温度などに配慮し、季節を感じられるような飾りつけ等、居心地よく過ごせるように努めている。	掃除が行き届き、ホールは天井が高く、開放感のある造りになっており、陽ざしの強さはカーテンで調整しています。廊下、トイレは広く、使い勝手の良い位置にトイレが設置されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや居室など思い思いに過ごせるような居場所づくりを工夫している。		
45	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族とも相談しながら、使い慣れたものや家族の写真、家族からの手紙等なじ飾ったりしながら、居心地よく過ごせるように工夫している。	家族の写真や手紙を飾り、位牌に水をお供えしている方もおり、利用者それぞれが自分の生活の場として環境を整えています。	
46		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室や共有の場所の安全確認や整理整頓を行い安全に出来るだけ自立した生活が送られるよう環境づくりに努めている。		